

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

# ポレーシエ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1993.5.31 No.17

## 石棺を閉じた男たちの講演会 今夏開催！！



これまでもリクチン送付などに見られるようにチェルノブイリ救援・中部では、いくつかのプロジェクトを組み、より実のある救援ができるように長い時間をかけて調査し、実施しています。

今年一年間についてもどのように救援活動をしていくか昨年より様々な討議を  
け、この程ようやく催しと救援プランが決まりましたのでお知らせします。

具体的には

1. 失明寸前の少年の日本での治療
2. 「石棺を閉じた男たち」の講演会実施
3. 二人同時写真展の開催
4. ウクライナ医師3名の医療研修
5. 地湧社より「チェルノブイリからの107通の手紙」の出版
6. 現地への救援物資の送付（ほぼ隔月で実施）

が予定されています。

今年は、上記の内5つのプロジェクトが7、8月に同時進行するというかつてなく忙しい展開が予想されています。詳細は次ページ以降をご覧ください。そしてどうぞこれらの催し・救援活動をご支援ください。



## チェルノブイリ原発事故の真相にせまる 除染作業者が初来日

これまで大きく騒がれながら光が当てられることがなかった事故当時の模様をウクライナ共和国ジトーミル州から事故直後汚染除去のため参加した消防士2人を日本に招待し、各地で講演会を行います。チェルノブイリ原発の除染作業者が来日するのはこれが初めてです。どうぞご期待ください。講演予定およびインタビューの一部（5ページ参照）を掲載します。尚、共通入場券（1000円）の販売は7月頃より開始します。

### ○講演会予定：

8月21日（土）名古屋市	河合塾体育館	午後1時半～
22日（日）浜松市	青年婦人会館	午後1時半頃予定
25日（水）岐阜市	岐阜市文化センター	午後1時半頃予定
26日（木）伊那市	伊那勤労者福祉センター	午後6時～
28日（土）沼津市	（未定）	

### ○講演者プロフィール：

アントニユーク、レオニード・オレクサンドロヴィチ：

1986年5月5日から9日までチェルノブイリ原発の事故炉の下から水をくみ出す仕事について。ジトーミル州消防部長代理。34才。

オチュカノフ、ワレーリー・ステパノヴィチ：

1986年5月5日から20日まで事故を起こした原発敷地内およびブリャチ河貨物港で放射能汚染除去作業に従事。また莫大な放射線をあびた運転手になって消防自動車を運転。

### ○入場料 1000円（各地共通）

注：入場券郵送希望の場合は、入場料+62円を救援・中部の下記口座まで「入場券希望」と明記してお振込下さい。

### \*団体協賛募集について

講演会運営費のため、団体による協賛を募っています。  
協賛金は1口1万円で、協賛いただきますと当日配布チラシに協賛団体名を入れさせていただきます。

### ○入場券等の申込みは

郵便振替 名古屋8-108610  
口座名 チェルノブイリ救援・中部



# 失明寸前のドミトリー君を救って!

～放射能の病気はガンや白血病だけではありません～

女子体操の元世界チャンピオンでウクライナ・キエフ出身のオクサナ・オメリチャンスクさん(22才)が、チェルノブイリ原発事故で失明の危機にさらされている弟を救いたいと訴えている記事が昨年12月に日本の新聞に掲載されました。

チェルノブイリ救援・中部では、弟のドミトリー君のカルテを複数の病院から取り寄せ、本人の病状や日本での治療の効果について独自にこれまで調査していました。

この結果、ドミトリー君は、現在右目が失明しており、左目もコーツ病によりこのままほうっておくと失明するのは時間の問題であることが分かりました。

これまで治療のためキューバおよびモスクワの病院に行きましたが、レーザーによる治療がされず病気の進行が止められなかったのです。

チェルノブイリ救援・中部では、平田國夫医師(平田眼科・愛知県春日井市)の協力で6月末から7月末まで名古屋の病院で治療を行います。

他の病気と同様放射能との直接の因果関係を証明することはできませんが、事故後様々な病気が多発していることは、これまでに救援・中部に届いた沢山の手紙からも分かっています。また実際に事故後の被災地での視力の低下、目の病気の多発についても手紙の中で訴えられています。放射能の病気は、白血病や甲状腺ガンだけではないのです。

治療のための費用は約200万円と見積もられます。皆さんからのカンパを募ります。

患者の氏名：メリクリヤンツ・ドミトリー・ワレーリエヴィチ君(12才)

病気の経過：原発事故後、目に白斑ができた。1990年モスクワで1992年キューバにて治療。右目は回復せず、左目にも同様の症状が広がりつつある。

ツ 5月4日

家族心配  
ゆかて9.95  
95V演技  
国際体操競技4力国対抗



世界選手権優勝  
全種目1位

(事故当時の記事)

日刊スポーツ 1986.5.4)



## 医療関係者の皆様へ

～ウクライナ医師研修協力のお願い～

\*\*\*二人の研修は協立総合病院で、一人はまだ未定\*\*\*

前月号にもお伝えしましたが、昨年が続いて医師研修を今年も行いたいと受け入れ先を探しています。そして昨年も受け入れて頂いた名古屋の協立総合病院で今年も二名について研修をさせて頂けることになりました。

しかし、残り一名のイワン・レスノイさん（麻酔学）がまだ決まっていません。現地ではこの研修に極めて高い評価がされ、この事業の継続が強く要望されています。もし皆様でお心当たりのある方がいらっしゃいましたら救援・中部までご連絡ください。

今年は、8月2日から9月2日まで名古屋に滞在し、ホームステイをしながら研修を受けます。

### 医師の受け入れ条件について

- (1) 日本への往復旅費、国内旅費、滞在費、通訳費用など滞在中の生活面での必要な資金的バックアップは全て救援・中部が行いますので、研修指導して下さる医療機関には金銭面でのご迷惑をかけることはありません。
- (2) 研修中、ロシア語の通訳がきます。また現地医師は英語ができることを条件に面接の上選考しています。
- (3) 滞在期間は1カ月ですが、研修期間は短期間でもかまいません。
- (4) 研修期間については、受け入れてくださる病院の都合に合わせ相談させていただきます。

\*\*\*研修を受ける現地医師のプロフィール\*\*\*

- (1) アンナ・ゴンガルスカさん（女性）  
1954年生まれ。専門は内科、心臓病。  
1977年、チェルノビツキー医科大学で博士号を受ける。現在ジトーミル州立結核療養所の治療部門主任。
- (2) ラリーサ・ブレドネヴァさん（女性）  
感染症。ジトーミル市立第一総合病院勤務。著書あり。  
肝炎等について診断研修を希望。
- (3) イワン・レスノイさん（男性）（研修先未定）  
麻酔学。ジトーミル市立癌診療所勤務。麻酔について研修を希望。



## 「石棺を閉じた男たち」講演会関連記事

アントニーク氏（今夏来日講演予定）の話

原子炉の下の暗いトンネルを走り抜け、消防車にたどりついた。だが長い間（汚染水をくみあげる）ポンプが、何故動かないのか分からなかった。見知らぬ将官がやってきてどうなっているのか私達に説明した。5,000トンの砂やセメントが原子炉にヘリコプターからばらまかれていたのだ。今すぐにでもその原子炉は水の中に倒れそうだった。それは何か水素爆弾のようなもので、そうなれば半径300キロに渡って誰も生きてはられないだろうと、将官は説明した。彼は40分ごとにゴルバチョフに状況を報告していると語った。……

以上 現地のチェルノブイリ特集英文誌「CHOLNOBYL'S HOSTAGES No.1」から抜粋（この特集誌は、現地新聞社が製作。救援・中部で販売中 1冊500円 No.1～4までである。）

\*\*\*\*\*  
写真展開催のご案内

## 写真展「核の目撃者たち」

～広河隆一・豊崎博光同時写真展～

日時：8月17日（火）～22日（日）

場所：愛知県芸術文化センター12階 アートスペースG・Hにて

入場：無料

解説：広河隆一・豊崎博光・・・二人は世界の放射能被害を追い続ける現代を代表するフォトジャーナリスト。300平方メートルの会場に二人の写真家の迫力ある写真を一同に展示します。広河さんは、チェルノブイリ子ども基金の代表でもあり、精力的に救援物資を被災地に送る活動も行っています。





声・声・声 ～現地から届いた手紙から～

尊敬するチェルノブイリ救援・中部の皆さん

1993年4月8日

この困難な時期に当たり、私共の病気の子供たちのために皆さんが下さった心配りと、このうえなく貴重な援助にたいして、深い感謝の言葉を申し上げます。

セレプロシド拝受しました。大変ありがとうございます。私共はこの素晴らしい薬で子供達を治療し始めました。すでに50人に投与しましたが、効果は大変良好です。

蘇生室にいた、最も重い症状の次の子供達が、皆さんが送って下さった抗生物質の投与を受け、そのおかげで全快しました。

モロドツオワちゃん	生後2日	: 吸引制肺炎
トカチュクちゃん	1才9カ月	: 狭瘕性咽頭気管支炎(?)
サムチュクちゃん	7カ月	: 肺炎
ストレリチェンコちゃん	8才	: 化膿性腹膜炎
コルズンちゃん	5カ月	: 耳性髄膜炎

病院の医師たちと病気の子供達の親は、皆さんがボランティア精神で活動することがどれほど困難であるか、このためにどれほど多くの力を費やしているかを良く理解しております。私共は、もう一度皆さんのこの人道的な活動に対して感謝します。

R. V. アルチュフ医師

ジトーミル州立子供病院勤務

(一昨年救援・中部の招きで来日各地で講演)

\*\*\* 近刊のご紹介 「チェルノブイリからの107通の手紙」 \*\*\*

「チェルノブイリからの107通の手紙」が、地湧社より出版されることになりました。107通の手紙は、90年暮れに救援・中部と現地救援窓口のジトーミルスキー・ヴィスニーク新聞社が共同で、日本と原発事故被災地の母親との心と心を結ぼうと文通を呼びかけ、その結果救援・中部に現地から母親の気持ちを訴える手紙が沢山送られて来ました。この度これらをまとめ本として出版することとなったものです。1冊500円で7月中旬ころ発売される予定です。

尚、地湧社はかつて、ベストセラー「まだ、まにあうなら」を出版しました。



## 夏休みにあなたの一日を カンパしてください

7月から8月末まで、ドミトリー君来日治療、医師研修、講演会、写真展と全ての催事をチェルノブイリ救援・中部のスタッフが主催します。これだけの催し物が集中するのは初めてです。私達だけの手ではとても足りませんあなたの一日をカンパしてください。助けていただきたいのは次の日です。会場準備、場内整理や受付などが主な仕事になります。

「石棺を閉じた男たち」講演会・・・各地の講演日（2頁参照）  
写真展・・・場所：愛知県芸術総合センター 8月16日～22日

協力していただける日がありましたら救援・中部までご連絡を  
電話：052-836-1073（月・水・金 10:00-15:00）

## 事務局維持会員入会のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、膨大な事務作業をこなすために昨年3月に事務局を開設しました。長期の救援を行うために皆様の維持会員を募っています。今年もさらに救援活動を続けるため入会をお願いします。

◎維持会員入会費 1,000円/月  
（一年分まとめての場合 10,000円/年）  
郵便振替口座：名古屋8-108610  
（\*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい）

## 貨物コンテナー現地到着

1月21日に大阪港を粉ミルクなど6.6トンを載せた貨物船が予定より大幅に遅れて5月9日ジトーミル市に全て到着しました。これは3月末港に到着後ジトーミルへの貨物便がないため止め置かれたもので、その後新聞社がコンテナー車で直接取りに行きました。そして送った物資は全て受け取ったとの連絡がありました。この他5月27日にも航空便で220kgの医薬品を送っています。



チェルノブイリ救援・中部〈会計報告〉(1993.2.1~5.31)

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰り越し	14,235,171	医薬品代	4,185,268
救援寄付金	873,275	中古カメラ光源ランプ	108,562
事務所維持費	444,500	移住基金	100,475
ミルク代カンパ	9,000	CHERNOBYL'S HOSTAGES	100,000
絵葉書等売上	193,935	救援物資輸送通関料	212,220
絵画貸出料	10,000	電話等通信費	230,235
預金利子	302,944	印刷費	80,298
		会場費	1,850
		出張旅費・交通費	53,360
		事務所維持費	500,000
		小 計	5,572,268
		次期繰り越し	10,496,557
合 計	16,068,825	合 計	16,068,825

＊ ＊ お知らせとお願い ＊ ＊

- ・ポレーシェを読んでもくださる皆様の宛名を一部変更させて頂きました。  
 今回号より二重の送付をなくすため宛名管理を統一し、宛名の表現を文字数等の制約から一部変更しました。まだ未整理のため失礼な表現があるかもしれませんが、ご了承ください。また重複配送、宛名の誤りがありましたらお手数ですがお知らせ下されれば幸いです。
- ・救援金をお寄せいただいた方には全て事務局より領収書を送らせていただいております。振込用紙に住所氏名等を明記ください、もし領収書不用の方は振込用紙の通信欄にその旨お書きくだされば幸いです。
- ・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。
- ・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(板東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。

\*\*\*\*\*  
 チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表:長谷川三知子

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)